

## 「猛毒キノコの探究 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小学生の子どもたちと自然観察をしている時も、キノコは注目の的になる。



たとえば、写真は「タマゴタケ」というキノコ。夏から秋にかけて、公園や校庭の端でもごく普通に見られるキノコだ。これを見つけた子どもたちは、決まり文句のようにこう言う。

**「これ、赤いから毒キノコだよ！」**

**「毒キノコに触ると、かぶれるよ！」**

これらの情報源は教科書でも図鑑でもなく、親から聞いたというものが多い。「赤いから毒キノコ」や「触るとかぶれる」はいずれも根強い迷信だ。私はその誤りを正そうとするのだが、「だってパパが言ったもん！」と反論され、なかなか信じてもらえない。

タマゴタケも、名の通り基部にツボ（卵）がある、テングタケ科のキノコだが完全に無毒である。むしろ食用菌として有名で、私も食べたことがある。癖がなくおいしく、もちろん中毒はなかった。仮に猛毒のキノコだったとしても、触っただけでかぶれたり、中毒を起こすキノコは一つもない。例えば「ニガクリタケ」というキノコは猛毒だが、噛んでみて「苦い」ということで、食用の「クリタケ」と見分ける。飲み込まない限り、口に入れても大丈夫なのだ。

シロタマゴテングタケも食すと致死性的猛毒だが、私

は「探究」のために何度も触っている。今回も傘を切った実験をしたが、手がかぶれたりはしなかった。



写真は、キノコの茎を取り去って、傘を黒い紙に伏せる実験の様子だ。一部はヒダの顕微鏡観察に使う。



そのまま風に当たらないように、コップやお皿をかぶせて、半日ぐらい放置する。



すると、このようにヒダの形と同じように胞子が落ちる。これは「胞子紋」と呼ばれ、この色（胞子の色）も図鑑に必ず載っていて、同定の決め手になる。シイタケでも実験できる。シロタマゴテングタケの胞子紋は「白」だが、もともとヒダに色がついている場合は、白い画用紙のほうが見やすい場合もある。